

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】文字部あるいは絵柄部を、芳香性および／または消臭性を有するインキで形成してなることを特徴とする芳香カレンダー。

【請求項2】カレンダーの表面および／または裏面にガスバリアー性を有する透明フィルムを積層してなることを特徴とする請求項1記載の芳香カレンダー。

【請求項3】表面に文字部あるいは絵柄部を、芳香性および／または消臭性を有するインキで形成し、裏面にガスバリアー性を有する樹脂を積層してなるカレンダーを複数重ね合わせて上部を綴じたことを特徴とする芳香カレンダー。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、カレンダーに構造的な変更を加えたりして、外観を変更することなく、芳香または消臭機能等の付加価値を持たせたものである。

【0002】

【従来の技術】従来のカレンダーは、実用性を求めただけのものと、風景写真や絵画を印刷して室内装飾用に用いられるものがある。後者の例として、カレンダーに機能性をもたせたものとして、カレンダーに芳香剤を組み合わせたものがある。このように芳香性を組み合わせたものとしては、実開昭62-94876号公報に示されるような芳香剤をフィルムで包み密閉し、カレンダー紙に全面接着し、カレンダー紙のミシン目を切ると芳香剤出口がミシン目と共に切れて芳香剤が発散するものと、実開平2-142061号公報に示されるようなカレンダーの紙固定片に網目状のケースを取り付け、その中に交換可能な芳香剤を入れて使用するものがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、これらは両方ともカレンダーと芳香剤とを構造的な工夫により接合しており、機能的には満足していたとしてもどうしても後付け感があり、「芳香剤付き」という印象が強く、シャレたあるいは高級なイメージを出すには不適切であると思われる。また、これらは構造的な工夫のため、加工などの製作においても、それなりの対策が必要となる。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は上述のような課題を解決するために、芳香性を持ったインキを用いて、文字部または絵柄部を形成することにより、従来のカレンダーの外観を変えることなく芳香機能等を持たせることができる。すなわち、カレンダーの基材として紙またはプラスチックフィルム、さらには紙とプラスチックフィルムの積層体が用いられる。インキとしては、ニトロセルロース系インキなどの無臭性のインキ、またはエマルジョンタイプの接着剤等に芳香剤等の香料自体を混合した香料インキを用いるか、粒度30～400メッ

吸着性多孔質粉末で上記香料を吸着した香料微粒子をインキまたは発泡インキ中に分散させた付香性インキまたは付香性発泡インキを用いるか、芳香剤等の香料をゼラチンカプセルの中に封入してマイクロカプセルとし、これを印刷インキ中に練り込んだ芳香インキが用いられる。

【0005】用いられている香料としては、特定の効果を有するものとして、不安解消や抗うつ用の香料であるベルガモット、ラベンダー、ローズマリー、シナモン等の精油、覚醒（眠気さまし）用香料であるはっか、ユーカリ、ベルベナ、サルビア、ヒソップ等の精油などである。また、消臭剤としては酸性白土、活性白土、活性炭、シリカゲル、アルミナゲル、合成ゼオライト、モレキュラーシーブ等があり、芳香剤と同様にインキ中に混合することにより消臭インキが形成される。

【0006】そして、得られた香料インキをオフセット印刷法、スクリーン印刷法、グラビア印刷法などの手段で印刷することにより、紙にカレンダーの月日などの文字部および絵柄部がそれぞれ形成される。これらの基材の表面にEVOH等のバリアー性を有するフィルムをそれぞれ貼り合わせた後、上部を金具または樹脂等で綴じることによりカレンダーを形成する。

【0007】そこで、使用する際はがしやういようにカレンダーおよびフィルムの上部に切り取り用のミシン目線をそれぞれ設けておいてもよい。前記エマルジョンタイプの接着剤としては、酢酸ビニル系、アクリル系等任意のエマルジョンタイプの接着剤で良いが、あまり接着剤自体の匂いが強くないものの方が望ましい。

【0008】さらに、前記のマイクロカプセル中あるいは印刷インキ中に界面活性剤または強い極性基をもつ有機溶剤を混入しても良い。また、使用する際には前記の様に香料をマイクロカプセル化し、印刷インキ中に練り込んだ場合は使用時にフィルムの上から擦るなどしてマイクロカプセルを破壊し、芳香機能をもたせる。また、擦るなどの余分な作業を必要とせず芳香機能をもたせる為に、前記のマイクロカプセル中あるいは印刷インキ中に界面活性剤または強い極性基をもつ有機溶剤を混入し、これらの溶剤の影響によりマイクロカプセルが破壊されて芳香機能等を有するようになることができる。他に、バリアー性フィルムを剥がすことによって、インキ中のマイクロカプセルが破壊されて芳香機能等を有するようになることも可能である。

【0009】さらに、カレンダーの場合月ごとに絵柄部を変えたものもあり、その絵柄に合わせた香料インキを用いることも可能である。例えば、四季の移り変わりを花で表したものの場合、その月々に代表される花の香料インキを用いて季節感を引き立たせることも可能である。

【0010】

A-3

8-80691

Translation

[Description of Prior Art]

[0002]

In the conventional calendars, there are those that require practicality, and those that are used for interior decorating purposes by printing scenic photos or pictures. For an example of the latter, as one having functionality for a calendar, there is one combined with having aromatics dispensing characteristics. In such an aromatic-dispensing type of product, there is one where the aromatics is packaged in a film than is sealed, such a package is completely pasted onto the calendar, and when the calendar's perforation line is cut, the aromatics package opening is also cut, thus exposing the aromatics, as announced in JP62-94876, and there is a net-like case attached to the bound edge of the calendar, and inside this case there is a insert containing aromatics (exchangeable) which is released, as announced in JP2-142061.

\*\*\*\*\*

[0009]

In addition, in the case of a calendar, it is possible that there can be those where the picture part can be changed on a monthly basis, and aromatic ink associated with such a picture can be used. For example, in the case where a flower is used to represent the seasonal changes, it is possible to use aromatic ink representing each month in order to highlight such a seasonal change.

WR 070703 Cisperson 1

BEST AVAILABLE COPY